

学 校 名	山形市立第九小学校 山形市馬見ヶ崎二丁目5番1号 TEL 023-681-3600 FAX 023-681-3518	校 長	沼澤 聡
		研究主任	齋藤 優花
研 究 主 題	豊かなくらしを、ともに創り出す子どもの育成 ～主体的な学びを支える授業づくり～（2年次）		
研 究 主 題 設 定 の 理 由	【研究主題設定の理由】 現在の社会では、予測困難な不確かなことにも対応でき、持続可能な社会を形成する人材の育成が求められている。それを受けて、学校では、個人が豊かな人生を切り拓くために、他者を価値のある存在として尊重し、互いに協働しながら様々な社会的な変化を乗り越えていく力を身に付けさせる必要がある。 本校の子ども達は、課題に対して熱心に取り組む一方で、“自分たちの学びは自分たちでつくる”という、主体的に学ぼうとする姿に課題がある。そこで昨年度から、「豊かなくらしを、ともに創り出す子どもの育成 ～主体的な学びを支える授業づくり～」を研究主題として実践を行ってきた。主体的な学びを支えるものとして、「課題設定」「単元構成」「学び合い」を重点に置き、授業づくりを行ってきた。1年間の実践を通して、毎時間の学習課題を工夫したことで、学びに向かう姿がよくなった。一方、学び合いの場を設定したことで、協働的に学習する姿は見られたが、学びの深まりと単元づくり、単元を通した課題設定において課題が残った。そのため、単元としての授業づくりをどのように進めていくのか、学び合いをどのように捉えるか、単元づくりを進める中で、課題設定や学び合いをどう位置付けるのか等について、さらに考えていく必要性から、今年度の研究主題は、「豊かなくらしを、ともに創り出す子どもの育成 ～主体的な学びを支える授業づくり～（2年次）」と設定する。さらに、重点を「単元構成」とし、子ども達の主体的な学びに迫っていきたい。		
主 題 に つ い て	【主題について】 ○ 豊かなくらしを、ともに創り出す子どもとは 社会や生活の様々な変化を前向きに受け止め、自他共に価値ある存在として尊重し、協働しながら様々な課題を乗り越え、豊かな生活を主体的に創り出していく子どもと捉えている。 この主題を実現するために、以下の4つの資質・能力をもとに、全ての教育活動を実践していく。 ● 探究：探究的（課題→情報収集→整理・分析→表現・まとめ）に課題解決する子ども ● 整理：既習事項や新たな情報を課題に即して整理する子ども ● 表現：学んだことを課題に即してまとめ、多様な表現方法で伝える子ども ● 対話：友と対話して、自分の考えを広め、深める子ども これらを重要な4つの要素と捉えて実践を積み重ねていくことで、学級づくりや授業づくり、支援のあり方や教師の意識について共通理解を図ることができると考える。そして、豊かなくらしをともに創り出す力を育てていきたい。		
研 究 の	今年度は、昨年度の「単元づくり、単元を通した課題設定においても課題が残った。」という反省から「単元構成」を重点とする。見通しをもたせることで、「主体的に学ぶ子ども」という目指す子どもの姿に近づくことができるのではないかと考え、研究を進めていく。		

重点

研究の内容・方法

【研究の内容】
全教科 ※研究授業の教科も指定しない。

【研究の方法】
研究組織
・研究全体会、推進委員会、各学年部会、各学年会で組織する。

授業研究
・日常的な授業実践
・研究授業
・校内研修の実施
・カリキュラムマネジメントの作成と活用
・先進校の授業視察
・研修日の活用

〈授業研究会の進め方について〉

	大研	小研
	全3回 (各学年部) 指導主事要請を行い、ご指導いただく。	1人1授業 (学級担任) 積極的に指導主事を要請する。
事前研	学年部＋研究主任・副主任 (＋該当教科をもっている方などの希望者)	学年 (必要に応じて学年部でも可)
準備	研究推進員を中心に、学年・学年部で協力して行う。	
役割分担	(学年部で分担) ①授業者 ②記録・写真／司会 ③事後研だより	(学年で分担) ①授業者 ②記録・写真／司会
事後研	全員	学年部＋参観者
事後研だより	学年部の担当が発行（2週間以内） 全員に配付	授業者が発行（2週間以内） 全員に配付
その他	・研究授業に限らず、自ら授業を開いたり他の先生の授業を参観したりして学び合う。 ・年間に1度は全員指導案（細案）を書き、授業を公開する。	

〈研修日〉
・水曜日は研修日として、授業について考える。
（単元づくり、教材研究、指導案検討や実践の情報交換、お悩み相談会、板書検討等）
・確かな学力育成部と連携して、研修会を実施する。

